

なきごえ



1972

5

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物園における幼児教育

植田美代子

◎動物園と人間

動物園という所は、つくづくふしぎな所だと思いますね。うれしそうに動物舎の間を走りまわりながら家族とともに動物の相手になっている幼児らはもちろんのこと、若い恋人たちやひとりぼっちのおとなたちの姿までも園庭で見かけることができます。動物園は庶民の憩いの場所であり子どもだけのものではないようです。相当に強いにおいのする動物園ノそんな場所でおざわざデートする若者たちを、私はなぜか好感をもって見ることができるのです。動物の好きな人に悪い人はいないんだと思いでいます。小鳥に餌をやるのを忘れるような、また、さくら草など鉢植えを買いこんでますがすぐに枯らしてしまうような人は、人間の子どものを育てる「教育」という活動はむつかしいのではないかとさえ思っています。これらの、ものを言わない小さな生命をたいてせつにすることのできる人は、動物や植物の心もわかる人であり人間の心も理解できる人だと思えます。

○ある動物園の園長さんが「保育の心を語る」シンポジウムでこんなことをおっしゃいました。

●人間も動物である。ある時には人間を含めた動物の見地からいろいろのことを考えてほしい。そうすれば、人間の嫌がることは動物も嫌なことがわかる。不消化な食べ物を時間もかまわず与えたり、動物にものをぶっつけたりしないはずである。

●人間は、いろいろの動物のなかにあって、一種独特のパターンをもっており、人間らしさを失ってしまったのでは困る。近頃、交通事故などでも、前後みさかもなくとびだして人間以前の事故のしかたをしているものがめだつ。

●具体的には動物園でも、入園した子どもたちが、動物に親しみをもって接してくれるよういろいろの手だてを考じている。それは幼児教育の手だてとまったく同じようである。動物をなんとなくけげらいしている子どもには、まず絵本コーナーで動物絵本に親しませる。次は順路を考えないで幼児が自主的に好きな動物を選んで好感をもって見学するように配慮する。そのうちに、いろいろの動物に関心をもち、仲間のあることを知りその生きかた、形態にも興味をもち、だんだんと愛情いたわりの心をもつようになる。

……と生命尊重など人間の原点にふれたような深いお話があり私たちおとなが、動物園へでかけた時にどんな態度で幼児に接したらよいか、人間らしさを失わないようにしたらよいか考えさせられました。

「これがゾウですよ。アフリカとインドのゾウはちがいますよ。キリンは、首が長くて黄色ですよ」とやつぎばやに知識だけを幼児につめこもうとしている教育ママの姿を動物園でときどき見かけますがこれは幼児にとっても常に受身的……。自分で見つけ、考えだすのでないのですから、そのうち動物園も楽しくない所になってしまうことでしょう。でも、あるときには、そういう知識的なことを与えることも必要な場合もあるかと思

ますが、十分考慮して押しつけにならないようにしたいものです。ゾウや、キリン、カンガルー、カバ、また海にすむクジラやペンギンなど子どもたちが非常な関心と親しみをもって動物たちは絵本や童話、紙しばいのなかの主人公であって、現実には、日本にすんでいないが、すんでいても殆んど見かけることのできない動物たちです。それがほんとに生きていて動物園にいる子どもたちにとってこれほどの感動があるでしょうか。そんなチャンスをやまつかまえて動物の生態などをわかりやすく話してやることは効果的であるかと思えます。このとき、絵本・童話などからうけたイメージを子どもにおしつけたいと思います。キツネやタヌキはだますものとか、オオカミはいつも悪者であるとか……動物にとっても迷惑な話であり、あまりいつも同じイメージの童話ばかりを与えないようにしてほしいと思います。

◎幼児の発言

「おかあちゃん、あの大きいサルと小さいサルは親子？ほれ、いまだっこしてオッパイのましてもらっている。あんなにしてオッパイのむんだね。かわいいな」「こっちの2匹は友だちらしい。おいかけてこして。あの方が大分速い。走りかたがカッコいい。うまいことぶらさがるね。あつ、落ちないように（落ちないように）気をつけや……」幼児たちがうれしそうに声援しながら猿ヶ島に見とれている。動物園へでかけると、こんな幼児らしい発想の見方や発言にしばしばであつす。そのうちに「なぜ、なぜ」と発問することも多い。こんなときには適切なあいづちを打ってやってほしいと思います。「あの、おかあさんのオッパイおいしそうね。おかあさんは、やっぱり大きいね。こちらで、おいかけてこしているサルは何匹位いるのかしら？」など幼児の心情をたいせつにしながら、ちよっぴり科学性（大きさ、数など）をふまえて応待してやりたいと思います。そして、できるだけ子どもが自主的に発言し、子ども自身で学び得るような状態においてやるのがたいせつだと思えます。幼児の新鮮な感動をたいせつにしながら絵をかくたり、あき箱や木片、ねん土などで動物を作ったり、「ぞうさん」の歌を歌ったり、好きな動物になってリズム遊びをしたり、こんどは自分が園長さんになり、できた作品を集めて動物園ごっこをして家族や友だちを案内したりして遊びはどんどん発展していきます。動物園は幼児にとっていちばん魅力のある場所です。詩情があり、科学性があり、なによりも人間形成に役立つ場所だと思います。幼児をとりまくおとなたちが、ゆたかな教育の場として生命尊重を身につけさせるなど、じょうずに利用していきたいと思えます。

(大阪市教委・指導主事)

なぎごえ5月号もくじ

動物園における幼児教育	2
幼稚園の動物飼育について	3
動物園グラフ	4・5
うそか？ほんとうか？	6
動物園ニュース	7

幼稚園の動物飼育について

田中花枝

4月に入園した子どもたちに、動物の好きな子どもと嫌いな子どもがいる。なぜ嫌いかとたずねると「こわい、という。この子どもたちは、今まで動物に直接触れたことがなかったり、こわい経験をしたことのある子どもたちである。『好き』という子どもは、餌をやったり遊んだりして、直接、動物に、触れ親しんできた子どもたちで、動物に愛情を持ち、友達のように思っている子どもも多く、その習性などについて子どもなりに関心をもっている。子どもたちが自ら餌をやったり世話を手伝ったり遊んだりして直接に経験することにより動物に親しみ愛情がわき、そこに、生命尊重の精神が培われてゆくとともに、興味や関心が深まってゆくのであり、何よりも動物を飼育して直接に経験させてやる必要がある。またこれによりこわいという子どもの、恐怖心を自然にとりのぞいてやることもできるだろうし、好きな子どもは更に興味や関心を深める結果となるだろう。

直接に経験をさせるには家庭での飼育もよいが都会生活者にとっては困難な場合が多く飼育の場は幼稚園となる。園庭の狭い都会の幼稚園では飼育困難な点も多いが、幼稚園のみが直接に経験をやる場となる子どもたちのため、できるだけ興味や関心をもつような環境づくりをしてやる必要がある。

動物飼育を始めるにあたっては、まず、子どもの実状や園の実状にそくした計画をたてる必要がある。何を飼うのか、どのような施設をするのか、経費や管理などについてなど、十分検討しておかなければ途中で飼育がご折れたり、動物を死なせたりする結果となる。

飼育する動物については、常時飼育するものと、季節的に飼育するものがあるが、いずれも飼育教材として選ぶときは、子どもと親しみがあつ飼育しやすく、危険性のないものが観点としてあげられる。

施設については、子どもが世話や観察しやすいこと、日当たり、排水のよいこと、清掃しやすいこと、犬など外敵から害をうけないようにすることなどがあげられる。固定した飼育小舎もよいが狭い庭園などではかえって移動できる小舎のほうが扱いやすい場合も多い。

ひよこの小舎や遊び場の柵など簡単に出来るものは、教師と子どもで合作してもよい。子どもたちは釘を打ったり、細い木をきったりよこんで手伝う。

飼料については、生物を扱うのであるから十分検討し確保しなければならない。子どもの家庭や、八百屋から野菜の残りをもらうことや、犬の餌として小学校給食の残飯をもらうことなど約束しておくのも一方法である。

近くに草原でもあれば子ども達と草つみにでかけることも、楽しい餌集めとなるだろう。

しかし小鳥の粟や、にわとりの混合飼料など、その他経費の



かかる飼料も考えて最初に予算をたておくことも必要である。管理については、職員数のすくない幼稚園ではなによりも全員の協力が必要である。飼育の世話や管理には時間と労力がかかる。飼育途中でご折ってしまうことも、協力できなかったことに原因する場合も多いのではなからうか。また動物の種類や数を多くしすぎることのないよう、飼育可能な範囲で十分管理をしていくことを考えることが大切であろう。

また教師も飼育に対する知識をもつよう研修することが必要である。

さてここで現在本園で飼育している動物の1端を紹介しよう。**うさぎ** この幼稚園でも飼育しているのはうさぎだろう。おとなしくて飼育には手間もかからないし、童話や、歌などにも出てくる親しみのある動物である。八百屋からもらってくる野菜などをきざんでやるのが子どもたちの毎日の仕事である。小舎の掃除は、教師がするがその間は外にでてとびはね子どもたちの遊び相手となる。このときがうさぎの運動時間でもある。こうさぎの頃はままごと遊びの仲間に入れてもらっていたが、今は大きくなりすぎて、あまり相手にしてもらえない。飼育当初は珍らしさも手伝って人気者だったが、子どもたちの呼びかけに反応を示さず、ただもぐもぐ餌をたべるだけであつそうがなく、元気者の男の子にはすぐあきらめられ、相手にされなくなった。

にわとり にわとりを飼っている幼稚園も多い。生んだ卵を母どりにだかせ孵化させたりしている幼稚園もある。うさぎ同様餌づくりは子どもたちの仕事であり、葉っぱをきざみ混合飼料をまぜてやる。ひよこの頃は水のとりかえもしていたが今は大きくなって子どものお手におえなくなり餌づくりだけが子どもの仕事となった。A児がおかあさんの里からひよこをもらってきたのが飼育の始りで、こやや遊び場の柵は教師と子どもたちで作ったが、ひよこを入れたときは、大よろこびだった。

いぬ 犬を飼っている幼稚園は少いだろう。よくなつてくるから人に危害を加えることはないとはいえない。おおぜいの子ども集まっている幼稚園であるから飼うとすれば犬の種類を選び定期的な狂犬予防注射は勿論のこと、その他園内で放し飼いにしてもよいかどうかの問題などもよく検討して絶対に危険のないよう管理をすることが必要である。本園には小犬の頃から飼いだした13年を過ぎた老犬がいる。園内の飼育動物のなかでもっとも親しまれているのがこの老犬である。昼は子どもの呼びかけに応じ相手となり、夜は宿直員の助けとなっている。老犬との日々のふれあいをとおして愛情を感じ、だれも犬をこわがらなくなったのはよいことである。

その他、小鳥、金魚、かめの常時飼育、季節的に、おたまじやくし、かえる、ざりがに、秋の虫などの飼育をしたが、これら季節的なものはある期間飼育すれば子どもたちに理由を話し逃してやることにしている。以上本園の飼育実状の一端である。(大阪市立姫島幼稚園長)





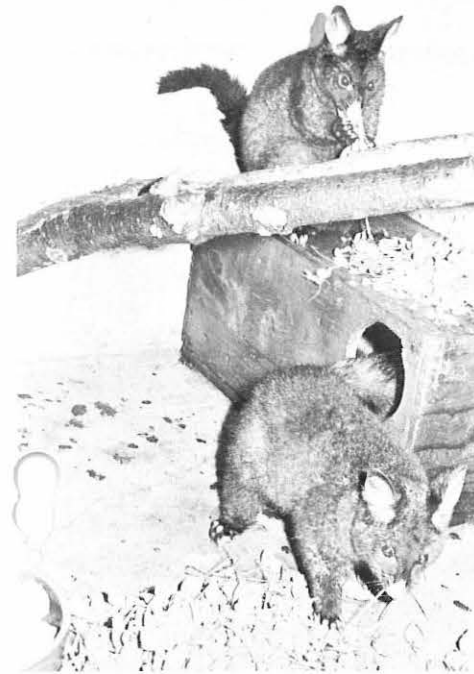
↑コビトコブウシ

こんど、おす、めすの2頭がお目見得しました。今、かもしか園の部屋に仮りずまいしていますが、夏には、メンヨウ舎横にうつる予定です。

動物園グラフ

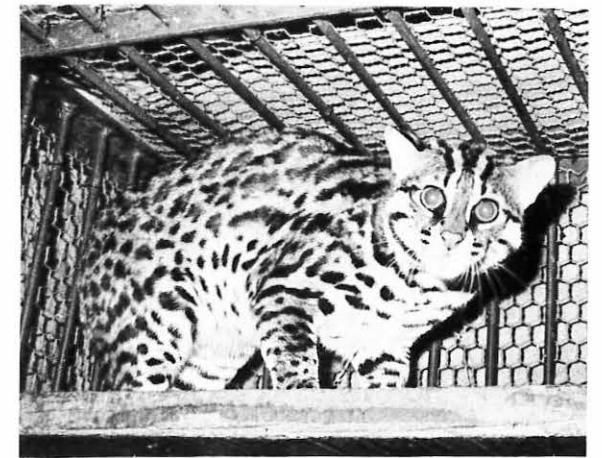
“こんな動物も入園しました”

最近購入したり、動物交換や寄付を受けた動物にこんなものがあります。まだ、動物園になれないので、静かな部屋に入れられて、見られないのがありますので、紙上でご紹介します。



フクロギツネ→

オーストラリアにいる有袋類の仲間です。夜行性で、セロリや果物(バナナなど)が好物です。



↑ベンガルヤマネコ

斑紋が大変美しいのですが、気性は荒い。

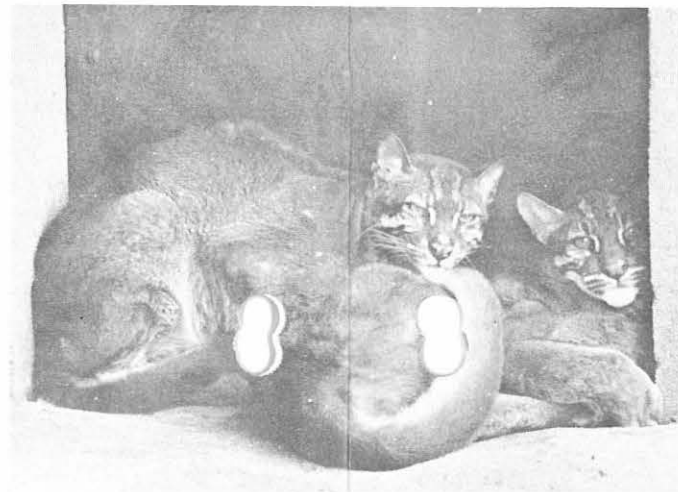


ゴールデンキャット→

チベットからスマトラにかけてすんでいる中型の猛獣です。中獣舎の端にいますが、まだ部屋になれないのか、すみの方にすっこんでいます。

←ミスジジャコウネコ

最近寄付されてきました。大変よくなれています。ジャコウネコは、他にマレージャコウネコが3頭います。



キンカジュ→

中央、南アメリカにすんでいます。長いしっぽを手のように使って、木のぼりをします。大変寒がりやで、しかも夜行性なので、なかなか展示しにくい動物です。果実や蜂蜜が大好物です。



3・4月動物園日記

- 3/22 フタコブラクダの赤ちゃんの体重測定を行いました。生後13日で53kgありました。
- 24 ツメバガン1羽が衰弱して死にました。19年も生きていました。
- 25 中獣舎では、ゴールデンキャットの入園のため、展示檻を確保するため、チョウセンオオカミ(めす)と、ジャッカル(おす)を同居させることにしました。
- 26 コブハクチョウが3コ産卵し、抱卵に入りました。

- 27 アオサギが自然ふ化しました。
- 28 ブタの赤ちゃん4頭が生まれました。シマフクロウが産卵しましたが、抱卵しませんでした。
- 29 トビカモシカ(おす)1頭が死にました。舌根に可憐したかたまりがあり、これが原因で餌が食べられず、衰弱していったものと思われます。
- 31 ゴールデンキャット1番が入園しました。ナンジャ5匹も爬虫館におみえしました。
- 4/1 カビバラは惜しくも死んでしまいました。
- 2 アカカンガルーの1頭は、調子が悪く治療をうけています。

- 4 エジプトガンが産卵しましたので、仮母のチャボに抱卵させています。
- 5 キングコブラは、衰弱がはげしく死亡しました。
- 6 新入園のゴールデンキャットの駆虫を行いました。
- 10 マンドリル一番が入園しました。
- 13 チンパンジーのリカ君は、や、風邪気味で治療を受けています。
- 16 アライグマとハナグマに、それぞれ赤ちゃんが生まれました。
- 18 アライグマの赤ちゃんは4頭いましたが、初産の

- ためか3頭が死亡し、残り1頭も人工哺育器に入れましたが、惜しくも死にました。
- 20 シュバシコウは、今年は5つの巣で計25コの産卵があり、ふ化がまられています。しかし、かなり育雛率が悪くなるのではないかと懸念され、ひなをとって人工育雛しなければならぬでしょう。
- 22 ノウサギの赤ちゃんの寄付があり、ミルクを与えています。
- 23 アグーチが1頭生まれました。
- 24 ファンボルトペンギンが1羽ふ化しました。

うそか？ほんとうか？

Believe it or not!

◎動物園問答10題

吉田平七郎

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. サルのノミ取り | 6. ダチョウとハゲタカ |
| 2. トラとライオン | 7. ペンギン |
| 3. キツネとタヌキ | 8. オシドリ |
| 4. ヤギとヒツジ | 9. ツルとカメ |
| 5. ツルとフラミンゴ | 10. ワシと幼児 |

問「サルはノミを取って食べているのか？」
 答「あれはノミ取りではなく毛づくろいといっておたがいに愛情や親近感を示す行動で群の順位も解り、時々口にしてるのはノミではなくふけで汗から出た塩分を取っているといわれている。」

問「トラとライオンはどちらが強いのか？」
 答「百獣の王はライオンになっているがトラとライオンは住んでいる場所がちがってトラはアジアの森林にライオンはアフリカの草原だからけんかにならぬ。強いもの同士がうまく住みわけをしていて無事平和に暮している。トラとライオンも動物園でなかよく一所にしておくタイゴンやライガーが生れてくる。」

問「キツネやタヌキはだますか？」
 答「昔話に出てくるキツネやタヌキはいろいろなものに化けてよく人をだましているが彼等は夜行性の動物で又人家に近い所に住んでいた昔の人たちはそう思っていた。しかし映画動物たちの中でキツネが死んだまね(擬死)をしていると好奇心の強いカラスが近づいてキツネにつかまる場面を見て本当にキツネはうまくだます賢い動物だと感心した。」

問「ヤギやヒツジは紙が好きか？」
 答「ヤギやヒツジに紙をやっちはいけませんと注意書きがあっても風でとんできた紙袋を彼等は食べてしまった。紙は植物のセルロースからできて私たちにこれを消化することはできないが、ヤギやヒツジ等の消化管内にはセルロースを消化させて糖類にする微生物(原生動物のセンモウチュウ類)が共生して栄養となる。しかし子供たちはビニールも同一視するので禁止している。」

問「ツルやフラミンゴが1本足で立っていても大丈夫なのか？」
 答「体育の時間に休めの号令がかかると片足だけで体重をささえ片方の足を休ませる時々交代した方が早く疲労が回復する。それにツルやフラミンゴは長い頸を体にくっつけて眠るがそのバランスをとるためにも都合よく、たとえ風がふいていても安定を保つ神経だけは作用しているので倒れない。」

問「ダチョウやハゲコウ、ハゲタカは何故はげているのか？」

答「彼等は熱帯アフリカ産の動物で体温の調節を容易にするため裸出して放熱作用をさかんにしている。ゾウやサイが裸になっているのも同じ適応進化の結果である。」

問「ペンギンは何故人なみに立って歩けるのか？」
 答「それは水中に潜ることのできる鳥の足がだんだん後体部に移った結果でウヤカイツブリ等も地上で休む時には体が斜から垂直に近づけないと体の平均安定がとれなくなり、ペンギンでは完全に人なみの姿勢となってよちよち歩きをするようになった。」

問「オシドリは本当に夫婦仲がよいのか？」
 答「ガンやカモの類に共通した習性でオシドリは一番よく目立つので夫婦仲よく一生一夫一婦制の代表者になっている。水禽舎にたくさんいても一対づつ行動を共にしているのが見られる。しかし2-3代も人工的に飼っているとその関係が乱れてくる。ガチョウやアヒルも昔野生のガンやカモの家畜化されたものである。」

問「ツルは千年カメは万年生きるか？」
 答「ツルは80-90年位でカメはゾウガメになると150-200年も生き長命のシンボルになっているが外にもおめでたい動物がいるのどうしてツルとカメが結びついたのか？これはインドの仏教伝説が中国に入り日本へはツルがカメの背に乗ったローソク立で入ってきた。話というのは暗夜お釈迦さまを向岸に渡らせようと1羽のツルが貧者の一燈をくわえて浅瀬をさぐりながら行くがだんだん深くなると困っていると水中からカメが現われてツルを乗せ共力してめでたく無事水先案内の大役を果たしたという。」

問「ワシが子供をさらうか？」
 答「1932年6月ノルウエーのツロンドハイムに近い農場で4才になる女の子スベンハイルドがワシ(イヌワシ)におそわれて持ちさられたが2キロ近く離れた所にある山の崖の上でかすり傷位で気を失っていたが助けられた。彼女は現在結婚しているがその時の着物を記念に持っているという。ワシが子ヒツジや子ヤギをねらうことがあっても自分の体重までのもので先づ殺してから飛び立つのが習性になっている。だからこの事実は例外でワシが自分の巢の15メートルまで近づいたがすっかり力を出しきって疲れはたと見える。そのために命びろいをしたことになる。うそかまことか自然界には例外の特種もあってこの実話は世界唯一の記録に値する。」
 (おもちゃの動物園長)

表紙の写真説明
 「バクの親子」
 3月7日生まれたバクの赤ちゃんは、両親の愛情にはぐくまれて、どんどん大きくなっています。さすがに水辺が大好きで、おそれずに水に入っていきます。

動物園ニュース

★和田園長が定年退職



37年間動物園とともに歩んでこられた和田辰巳園長は、惜しまれながら4月15日退職されました。後任に、中川道朗主幹

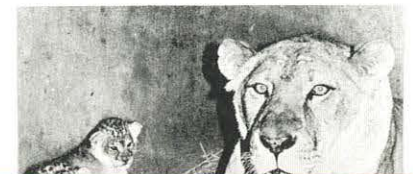
が命じられました。写真は、最後の日、オラン・ウータンのユキに好物のバナナをやる前園長。

5月1日から15日まで、恒例の春の動物園まつりが行なわれました。5日は恒例の“ゾウの目方を計る会”が行なわれ、万国博でインドから贈られた子ゾウのラニーひろ子や、大きな百合子さんが計られました。昨年より300kgも重くなっていました。

3-7日までは、コケッコウからモーモーまでというキャッチフレーズの家畜展が行なわれました。都会に住む子供たちは、食生活では家畜の恩恵を受けていますが、生きている家畜は接することができなくなりました。そこで、家畜動物を一堂に集め、市民にうらおいと、社会教育の一端を果すために企画されました。展示動物はニワトリ、あひる、しちめんちょう、うさぎ、やぎ、めんよう、ぶた、乳牛、馬などです。

なお、乳牛の搾乳実演も行なわれました。

★ライオンの赤ちゃん誕生



3月22日ライオンの赤ちゃんが2頭生まれました。この母親ラ

★4月1日より、中学生以下の小人は無料



明日のくらしのコンサルタント



3月14日 奈良近鉄百貨店オープン！
 近鉄西大寺駅前に登場した日本で初の本格的なショッピングセンターの中で新しい感覚のファミリーデパートとして 多彩な催しをくりひろげます



つねに新しいくらしのイメージをお届けする近鉄百貨店 品揃えは勿論のことゆきとどいたサービスで 皆さまをお迎えいたします 身近なコンサルタントとしてぜひご利用ください



TEL. アベノ(06)621-1231 / 上本町(06)779-1231 / 奈良(0742)33-1111

うそか？ほんとうか？

Believe it or not!

◎動物園問答10題

吉田平七郎

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. サルのノミ取り | 6. ダチョウとハゲタカ |
| 2. トラとライオン | 7. ペンギン |
| 3. キツネとタヌキ | 8. オシドリ |
| 4. ヤギとヒツジ | 9. ツルとカメ |
| 5. ツルとフラミンゴ | 10. ワシと幼児 |

問「サルはノミを取って食べているのか？」

答「あれはノミ取りではなく毛づくろいといっておたがいに愛情や親近感を示す行動で群の順位も解り、時々口になっているのはノミではなくふけで汗から出た塩分を取っているといわれている。」

問「トラとライオンはどちらが強い？」

答「百獣の王はライオンになっているがトラとライオンは住んでいる場所がちがってトラはアジアの森林にライオンはアフリカの草原だからけんかにならぬ。強いもの同志がうまく住みわけをしていて無事平和に暮している。トラとライオンも動物園でなかよく一所にしておくくとタイゴンやライガーが生れてくる。」

問「キツネやタヌキはだますか？」

答「昔話に出てくるキツネやタヌキはいろいろなもの

答「彼等は熱帯アフリカ産の動物で体温の調節を容易にするため裸出して放熱作用をさかんにしている。ゾウやサイが裸になっているのも同じ適応進化の結果である。」

問「ペンギンは何故人なみに立って歩けるのか？」

答「それは水中に潜ることのできる鳥の足がだんだん後体部に移った結果でウヤカイツブリ等も地上で休む時には体が斜から垂直に近づけないと体の平均安定がとれなくなり、ペンギンでは完全に人なみの姿勢となってよちよち歩きをするようになった。」

問「オシドリは本当に夫婦仲がよい？」

答「ガンやカモの類に共通した習性でオシドリが一番よく目立つので夫婦仲よく一生一夫一婦制の代表者になっている。水禽舎にたくさんいても一対づつ行動を共にしているのが見られる。しかし2-3代も人工的に飼っているとその関係が乱れてくる。ガチョウやアヒルも昔野生のガンやカモの家禽化されたものである。」

問「ツルは千年カメは万年生きるか？」

答「ツルは80-90年位でカメはゾウガメになると150-200年も生き長命のシンボルになっているが外にもおめでたい動物がいるのにどうしてツルとカメが結びついたのか？これはインドの仏教伝説が中国に入り日本へはツルがカメの背に乗ったローソク立で入ってきた。話というのは暗夜お釈迦さまを向岸に渡らせようと1羽のツルが

動物園ニュース

★和田園長が定年退職



37年間動物園とともに歩んでこられた和田辰巳園長は、惜しまれながら4月15日退職されました。後任に、中川道朗主幹

が命じられました。

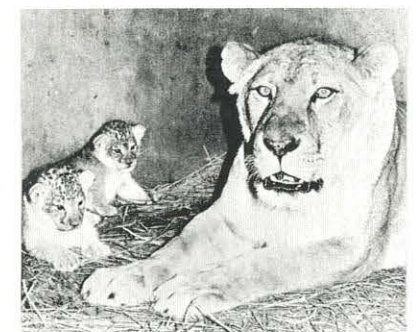
写真は、最後の日、オラン・ウータンのユキに好物のバナナをやる前園長。

5月1日から15日まで、恒例の春の動物園まつりが行なわれました。5日は恒例の“ゾウの目方を計る会”が行なわれ、万国博でインドから贈られた子ゾウのラニーひろ子や、大きな百合子さんが計られました。昨年より300kgも重くなっていました。

3-7日までは、コケッコウからモーモーまでというキャッチフレーズの家畜展が行なわれました。都会に住む子供たちは、食生活では家畜の恩恵を受けていますが、生きている家畜は接することができなくなりました。そこで、家畜動物を一堂に集め、市民にうらおいと、社会教育の一端を果すために企画されました。展示動物はニワトリ、あひる、しちめんちょう、うさぎ、やぎ、めんよう、ぶた、乳牛、馬などです。

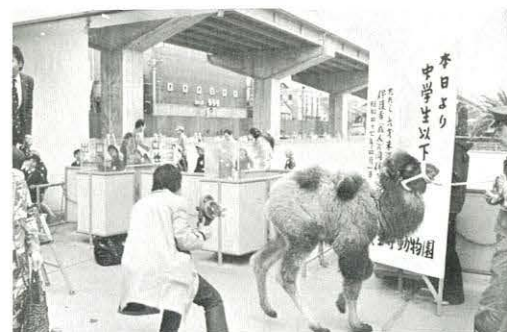
なお、乳牛の搾乳実演も行なわれました。

★ライオンの赤ちゃん誕生



3月22日ライオンの赤ちゃんが2頭生まれました。この母親ライオンは、このところ毎年2産づつて育児のよいライオンです。今回もよく乳を与えていて、まるまる大きくなっています。赤ちゃんライオンは、おすとめすでいま放飼場でお目見得しています。

★4月1日より、中学生以下の小人は無料



4月1日、この日から小人無料とあって、朝の開門からどっと入園者がつめかけました。春休み中の土曜日とあって、たくさんの子供たちが園内にあふれました。この朝正門前には、ラクダの赤ちゃんが入園者を出迎えるというサービスぶりに、子供たちも大喜びでした。

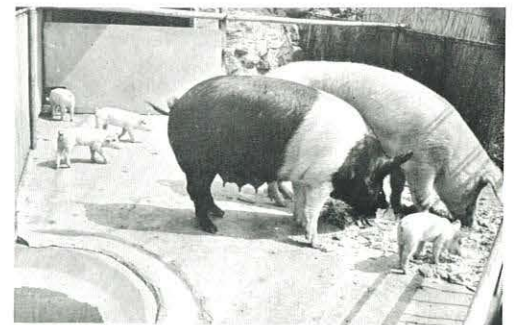
4月中の日曜日の入園者は、2日-5万1000人、9日3万人、16日-7万3000人、23日-6万人とたいへん多く、とりわけ子供たちの入園が目立っています。

★春の動物園まつり開かれる



（象の目方を計る会風景）

★子ブタの誕生



おすランドレース種と、めすのハンブシャー種との間に、このほど4頭の赤ちゃんブタが生まれました。母親は、初産ですがうまく乳を与えていますので、みんな元気に育っています。子供の色はすべて白です。

子どものための

動物のふしぎな世界

●全4巻 春・夏・秋・冬

- 園児から小学校低学年向きです。
- オールカラー160頁・B5判・上製本
- 各巻定価1,300円/セット価5,200円

子どもに動物に対する深い興味と、親しみを与える本書は、春・夏・秋・冬の季節別に活動する動物の生態の不思議さや、人と動物との心あたたまるふれ合いなどのエピソードを集めたものです。きっと子どもと動物たちの間にすばらしい世界がはじまるでしょう。

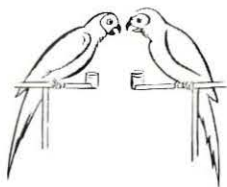
●お近くの書店・百貨店で求めください。 **ひかりのくに**



なきごえ 昭和47年5月15日発行(毎月1回15日発行) 第8巻第5号(通巻82号)

編集 / 大阪市天王寺動物園
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 加藤寿雄
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

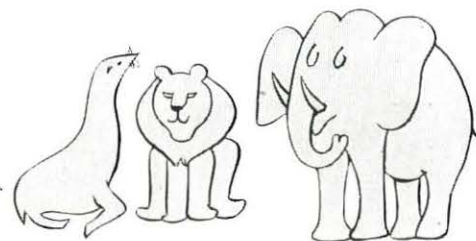
〒543 大阪市天王寺区玉水町2
電話 大阪 (06)771-0201
振替口座 大阪 37823
定価 100円(送料共)・1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円